

令和元年度 学術振興基金助成による成果報告書

令和2年3月24日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 柴崎 直明

助成事業の区分	<p>いずれかにチェックしてください 研究協力に関する事業 (<input checked="" type="checkbox"/>学会参加) 学術振興に関する事業 (<input type="checkbox"/>学生 <input type="checkbox"/>事務職員)</p>
事業名	Conference on Advanced Researches in the Earth and Environmental Sciences (海外)
事業実施期間	令和元年 11 月 28 日 ～ 令和元年 12 月 1 日
成果の概要	<p>2019年11月29～30日にかけてベトナム国ホーチミン市にあるホーチミン市資源地理研究所(HCMCIRG)で開催された International Conference on Advanced Researches in the Earth and Environmental Sciences (CAREES2019, 地球環境科学の先端研究に関する国際会議)に参加し発表した。発表タイトルは「COMPARISON OF LAND SUBSIDENCE CHARACTERISTICS IN CA MAU PROVINCE, VIETNAM AND JAPANESE LAND SUBSIDENCE AREA」(ベトナム国カマウ省と日本の地盤沈下地帯における地盤沈下特性の比較)で、発表者は柴崎直明・メコングループである。</p> <p>発表は、CARESS2019のセッション2「地質学-地球物理学」において口頭で行った。また、発表要旨(Extended Abstract)は、CAREES2019の要旨集「Kỷ yếu Hội nghị: Nghiên cứu cơ bản trong “Khoa học Trái đất và Môi trường” (DOI: 10.15625/vap.2019.000171, 「地球環境科学」の基礎研究)の424-426ページに掲載された。</p> <p>本発表は、柴崎が事務局長を務めるメコン川流域地下水問題研究グループ(略称:メコングループ)が実施しているカマウ省での地盤沈下の研究結果、とくに地下水位変動と地盤収縮量の関係をもとにした地盤沈下特性を、日本の地盤沈下地帯である東京や関東平野北部、金沢平野の地盤沈下特性と比較したものである。参加者からは、カマウ省での地盤沈下の特徴等について質問が複数あり、地盤沈下に対する関心の高さが伺えた。なお、カマウ省での具体的な研究結果は、私の研究室に所属する大学院生(M1)の野内冴希君が筆頭となり口頭発表した。</p> <p>CAREES2019には、HCMCIRGをはじめベトナム側研究機関の研究者が数多く参加し、ベトナムでの共同研究の実施にあたって有意義な意見交換ができた。</p>